

(地域用)

回答日：令和 7 年 1 月 1 0 日

前橋市公民館運営審議会では、前橋市からの諮問「地域学校協働活動と公民館」に対して、令和 6・7 年度の 2 年間で協議を行い、答申書を前橋市に提出します。つきましては、学校、地域及び公民館との連携事業等について、以下のご質問への回答にご協力をお願いいたします。

1 大胡地区学校支援連絡会主催

令和 6 年度第 3 回キャリア教育「仕事に対する夢を育む授業」についてお伺いします。

(1) 本授業の開催趣旨をご教示ください。

大胡地区の身近な人から、職業について話を聞き、人との関わりを広げながら、皆のために働くことの意義を理解し、自分の役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。

(2) 本授業を学校や公民館と連携して開催するねらいをご教示ください。

大胡地区は 40 年以上学校と地域の連携が図れており、基盤のある地域である。公民館を含め、学校と地域が子ども達に人との関わり大切さを伝える事をねらいとして本授業を開催している。

2 令和 6・7 年度前橋市公民館運営審議会の諮問「地域学校協働活動と公民館」に伴い、学校や地域、公民館との連携についてお伺いします。

(1) 地域と学校を結ぶ公民館として、公民館に期待することは何ですか。

公民館が核となり、学校や地域を結ぶコーディネーターの役割を担うことにより、学校と地域の事業や活動がしやすくなることが理想である。そのためには、人材バンク等の整備も必要となる。

(2) 公民館と連携して事業を行う際、苦勞する点はありますか。

公民館の職員不足より、公民館職員が地域の事業や活動に関わるのが難しい状況である。また、人事異動等により職員が地域に根づいていないことも苦勞する点である。

(3) 学校と地域がこれまで以上に連携するために必要だと思いませんか。

学校は、組織を作るだけでなく「地域とともにある学校づくり」という考え方を基に連携していかなければならない。開かれた教育課程、地域とともにある学校等について、学校の考えをしっかりと持つことが大事。

また、地域内の学校により方針が違うため、事業を行う際は、柔軟に対応しなければならない。

(4) 学校と地域がこれまで以上に連携するために公民館がすべきことは何だと思いませんか。

学校と地域を繋げるためにも、各公民館に社会教育主事など専門職を配置する必要がある。また、公民館が積極的に学校側にしかける必要もある。

(5) 今まで公民館や学校と連携して事業を行う中で上手くいった、または失敗した事例があればご教示ください。

今回の「仕事に対する夢を育む授業」や「子どもわくわく活動」は継続して行われ成功している事業である。

この「子どもわくわく活動」は、大胡地区の公立幼稚園や小学校を対象に昔あそびや軽スポーツなどを子どもに伝えたり、のびゆく子どものつどいに参加したり、子どもの未来につなげるような活動を行っている。この活動は定期的に公民館と会議を行い、公民館が事務を担ってくれているので、円滑に活動できている。

(6) 上記の事例で、成功・失敗のポイントは何だったとお考えでしょうか。

大胡地区で親子の居場所づくりとして活動していた「いっきゅうさん」は、公民館の職員不足等により継続が不可能になった事例がある。

やはり、公民館に社会教育主事の配置など人員体制を整える必要がある。

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

前橋市公民館運営審議会事務局

前橋市中央公民館内 担当：新井

TEL 027-210-2199 FAX 027-237-0722

E-mail : Chuo_komin@city.maebashi.gunma.jp